

## 第 18 回金沢大学教養教育全学研究会

テーマ「共通教育改革について—先行他大学からの報告—」

日時 平成 27 年 11 月 4 日（水）13:15～

会場 金沢大学角間キャンパス 自然科学系図書館 AV ホール

開会の挨拶

柴田 正良（教育担当理事）

皆さんこんにちは。教育担当理事・副学長をしております柴田でございます。今日の研究会に先立ちまして、一言だけ共通教育の改革に関する背景を述べさせていただきたいと思っております。共通教育改革は、本学におきましては二つの大きな転機、出来事の中にその中心部分として位置付けられています。一つは、昨年度にわれわれの大学が採択されました、いわゆる SGU（スーパーグローバル大学）創成支援事業に応募するに当たって、教育改革の目玉の一つとして国際化を謳い、それを実現するために新しい共通教育のシステムを作ろうとしました。国際化を進めるには人材育成のためのスタンダードを具体的に決めなければならないという流れの中に、共通教育の改革が位置付けられました。

それから、もう一つの出来事は、来年度から始まる第 3 期中期計画・中期目標の期間中に、いわゆる運営費交付金の重点支援に関して、タイプ 1、タイプ 2、タイプ 3 のいずれかを選択しなければならないという事情です。われわれとしては思い切ってタイプ 3 を選びました。もちろんタイプ 3 を選択した 16 大学の中にはいわゆる旧帝国大学が入っていますが、学長が言っているように、われわれが争うのは実はそれらの大学ではなく、世界の大学です。この度、そういう厳しい競争環境の中に自らの大学を置いたということがありました。

この第 3 類型は、世界のトップレベルの大学と伍して、教育及び研究に関して世界に冠たる成果を挙げていくことを約束するというものですが、研究ばかりに目が行きがちではありますが、しっかりと教育をしておかないと、大学の質としては、結局、落第だということになります。ますますもって教育システムの重要性が上がっている、とわれわれは認識しています。

こういう背景を持っていますが、本学における今回の具体的な共通教育のカリキュラムに関しては、後で堀井先生の方から詳しくお話があるかと思いますが、われわれとしてはかなり思い切ったやり方で共通教育のカリキュラムを作り替えようとしたと言えます。ただし、これは一つの解答であって、オールマイティの解答ではない。こういうやり方もあるだろう、ということです。私としては、このやり方は極めてシンプルであると思っております。シンプルであるが故に、取り除くべき障害も非常に大きいと考えています。

それはどういうことかという、今までの共通教育というのは、教養部があったときには教養部の先生たちが提供できる科目を三つぐらいに大きく取りまとめて、それを学生たちに提供するという仕組みです。教養部が解体された後は、ほぼ、全国どこでもそうだと思い

ますが、共通教育、教養教育に参加できる先生方の得意な科目を提供してもらうということで、人社、理工、医薬など、3分類や4分類に分けていたと思いますが、私の目から見ると、基本的にそれはまるっきり系統立っていない。先生がやりたい科目をやる、学生はそれに出るだけ、というのが本質だったと思います。つまり、先生のための教育であって、学生のための教育ではなかった、それは言い過ぎだと思いますが、そう言っても過言ではない側面があったかと思っています。

われわれはどういうふうに考えたかという、学生がどのような能力を身に付けなければならないかという視点を出発点とすることです。その人材目標のスタンダードとして、金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）を定めました。そして、KUGSで約束している五つにわたる能力のそれぞれを空文句に終わらせないために、それが実現できるような科目群を配置しました。それは全体で30科目ぐらいですが、これを新たに作ってもらうことが共通教育改革の本体です。

先生方から見ると、そんな科目は自分の専門領域ではないというのがほとんどの場合で、ぴたっとはまるというのはなかなかない。しかし、やはりそこは、学生の教育のために先生方も少し勉強していただいて、まさか物理の先生に国際関係論をやれと言っているのではないのですから、カバーできるところはカバーしてやっていただくという形で、まず学生のための科目群を作り上げ、次にその科目内容を全部同一のものとするためにテキストも作ってもらうことにしました。このようになり強引なやり方をしていますので、皆さん方からの不平不満もたくさんあるかと思っています。これが唯一可能なやり方である、理想的なやり方であると言うつもりもありません。そういうことはないと思います。ただ、一つのはっきりとしたシンプルな形を追求したということですので、ぜひともこれを来年度、4月1日からの新生入生に、ほころびのない形で提供していきたいと考えています。これも結構大変だと思います。

というわけで、われわれとしてはかなり高い志を持って、根本的なシステムの変更に挑んでいるということですが、それがどの辺でどうなっているのか。堀井先生の方からの説明にもあるかと思いますが、ぜひとも4月1日からの共通教育の実現に向けて、皆さん方にご協力をお願いして、私からの挨拶に代えさせていただきます。今日はよろしく願いいたします。